

『違う』 作：ポチ子

『違う』 作：ポチ子

ロッカーで、制服を着替えながら、

私は、お前らとは違う、

心の中でそう言った。

根拠なんてどこにも無いけれど、

お前らなんかよりも凄いだって、

子供じみた考えばかりが、頭に浮かぶ。

でも現実には、

落ちこぼれで、

周りから馬鹿にされる、

そんな私しかない。

今だって、

会話の一つにも混じれない。

混じったところで、

嫌な顔をされるだけだけど。

落ちこぼれのくせに、

プライドと見栄だけは一丁前だから、

他人を逆恨みして、愚痴を吐く。

最低な奴。

自分でも、そう思う。